

2nd
アワード
ann
unc
ment

日本獣医臨床病理学会 2022年次大会 オンライン開催

正確な臨床検査のためにいま私たちができること

オンデマンド配信 

9 | 1 - 9 | 30
2022 | THU | FRI



大会参加登録

■ 大会参加費

会 員 3,000 円
非会員 (獣医師等) ... 5,000 円
動物看護師 2,000 円
学 生 1,000 円

■ 参加登録期間

7月4日(月)～9月29日(金)
参加登録は会期前日まで受付致します

■ 参加登録

下記URLより受付します

<https://form.run/@jsvcp-2022>



お支払い方法

クレジットカード支払い・銀行振込

検査に関わる人、
集合せよ



JSVCP
JAPANESE SOCIETY OF VETERINARY CLINICAL PATHOLOGY

主 催 : 日本獣医臨床病理学会
大会長 : 西飯直仁 (岐阜大学)
実行委員長 : 米澤智洋 (東京大学)



日本獣医臨床病理学会

<http://www.jsvcp.jp/>



教育講演：正しい検査ルーティーンを身につける

モデレーター：井手香織(東京農工大学)

- ビョーキは作れる!? ウソの結果をもたらす、検体取扱いの落とし穴……………井手香織先生(東京農工大学)
- その検査の値、どこまで信じる? 院内測定の限界を知る……………早川典之先生(日本獣医生命科学大学)
- それって今日診断できます! 内分泌検査機器アップデート……………湯木正史先生(湯木どうぶつ病院)
- 自動CBCを鵜呑みにしない! 塗抹検査で正しく補正できる……………久末正晴先生(麻布大学)

シンポジウム：意外と知られていない動物医療の臨床検査事情

モデレーター：早川典之(日本獣医生命科学大学)

- ナルホド納得、生化学・免疫学的検査結果の作り方……………浅井智仁先生(富士フィルム株式会社)
- 鏡検にどこまで近づいた血球計算装置……………齊藤憲祐先生(株式会社堀場製作所)
- 検査結果に納得できる?検査管理と基準範囲……………末吉茂雄先生(女子栄養大学)
- それでは検査結果を考えてみよう……………早川典之先生(日本獣医生命科学大学)

細胞診・ドライラボ

- 細胞診基礎教育：標本の作り方と細胞診からわかること……………浅川 翠先生(どうぶつの総合病院, DACVP)
- ドライラボ：一緒に標本から診断をしてみよう……………石崎禎太先生(ノースラボ, DACVP) 田邊美香先生(動物病理診断センター, DACVP) 小笠原聖悟先生(小笠原犬猫病院, IDEXX, DACVP) 皆上大吾先生(東京農工大学) 根尾櫻子先生(麻布大学, DACVP)

募集期間を延長しました

一般演題を募集しています

一般演題 獣医臨床病理学に関わる演題

抄録応募期間

■ 2022年6月1日(水)～7月19日(月)

(右のQRコード[演題登録フォーム]より受付します)



1. 症例報告：臨床症例の検査、診断に関連した報告(症例の新規性にかかわらず、広く募集します)
2. 研究発表：検査法、診断法に関する研究成果の発表
・犬猫に限らず、大動物、野生動物など幅広く募集します。

動画

発表形式：オンライン発表(オンデマンド配信)

- 発表者の方は参加登録をお願いします。
- 優秀な発表はアワードとして表彰します。(大学教員および元教員は対象外です)

協賛・広告掲載 申込方法

オンライン・コンテンツ内で
 バナー、販促動画等の枠を企画中です。
 詳しくはHPをご覧ください(協賛案内頁)。

お問い合わせ

日本獣医臨床病理学会 事務局

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 2-9-19
 TEL：03-5916-0180 FAX：03-5916-0181
 E-MAIL：info@jsvc.jp

日々の診療で、検査値に疑問を持ったことはありませんか?

臨床検査として測定できる項目が増え、診断にも様々なコンセンサスが提唱され始めた昨今、正しい検査法によって正しい検査値を得ることは、当たり前なのですが、実際のところまったく混沌としているのが現状です。日々の診療の中で、信用できない検査結果が得られたり、検査項目間での辻褄が合わなかったりして、頭を悩ませた経験は誰しもあるのではないのでしょうか。



今年度の年次大会では、正確な臨床検査のために、いま私たちができることをテーマに構成を考えました。教育講演では、普段の診療において正しい検査ルーティーンが実施できているかに焦点を当てました。守られねばならない最低ラインが間違いなく実施されているか、各自改めて点検していただきたく思います。そしてシンポジウムでは、各分野の検査のプロをお招きしています。我々の信じている測定値が、いかにあやふやな物なのか、その裏側を暴いていきたいと思えます。細胞診・ドライラボでは例年どおり米国専門医をお招きし、質の高いディスカッションが行われるものと期待しております。

本学会のコンテンツが、普段の検査の中で何を信じ、何を得ればよいのかのヒントになれば幸いです。

大会長 西飯 直仁